

# 祝 滝西小学校開校百周年記念式典



大野会長の挨拶

二年に渡り準備を進めて参りました、開校百周年の記念式典及び祝賀会が十一月三日に二百三十名のご列席をいただき盛大に挙行されました。

全道・全国から集まった同窓生も交えて、感謝状の贈呈や滝西音頭のお披露目、恒例の滝西オーケストラによる「砂漠の隊商」の演奏に大きな拍手が送られていました。後半には、思い出のスピーチに耳を傾けながら名残り惜しく閉会となりました。十二月には記念誌も発行されます。その中から、同窓生の思い出の寄稿を紹介します。

## 「思い出」

第四十六回生 長屋 悦子(南)

滝西小学校百周年に当たり卒業生の一人として思い出を綴ってみました。

もう卒業して何十年たったのかそれすら思い出すのも困難な位遠い昔のような気がします。一番先に頭を横切るのが「カプト山」の存在です。(幼い頃、私たちは「がんげ山」と言っておりました。)カプト山の見下ろす所に、私が小学校、中学校と通っていた市街がありました。店屋も数件あり床屋、食堂、宿屋と生活には必要な建物一通り整っていたように思われます。

在校生も二百名前後いたのではないのでしょうか、今では想像もつかないですが。

カプト山といえども一年に一回は遠足で登っていた山です。頂上に立つと遠方に海が見えたような定かではないのですが、そんな記憶も有るのです。今でもこぞ熊の出没が騒がれますが、あの頃はそんな事も耳にした事がなかった様な気がします。理科の授業では川原に行き、図画の時間は外での写生、中学生になると陸上競技大会、ソフトボール大会と滝上中学校に行く事が、都会へ一歩足を踏み入



滝西オーケストラによる演奏



れる様な感覚で、胸をワクワク踊らせた様な気がします。

冬はスキーでの通学も珍しくなく、スキーをはかない時は馬槌の馬の足跡が幼い私には非常に歩きづらかった事も思い出されます。

あの頃の子供達は良く家の手伝いをさせられましたし、自分達も手伝うことが当たり前のように思っていました。私も牛の世話をしては学校へ行き、学校から帰ると又、牛の世話をすると、そんな生活を送っていました。そんな冬の寒い朝の手伝いの様子を作文に書いて冬休みの宿題で提出したところ、先生に誉められた事が今でもはつきりと思ひ出されます。



残念ながら滝西小は今年度をもち閉校となります。



女子数人でトイレに隠れて授業をさぼった事もあったとか、弱い男子生徒をイジメた事もあったとか、運動会の前にはあの広い運動場の草取りやら、石拾いが辛かったとか、しかし、記憶をたどっていくと、自然に囲まれた中で、伸び伸びと学校生活を送っていた様に思われます。

これからも、ずっと先々までこの滝西は雄大なカプト山に見守られ、緑豊かな自然美あふれる地域として息づいていく事を願っております。